



治

億



なにこれ



きっとおばあ様宛のものだわ



昔の手紙?



親愛なるお嬢様へ

ええい
よんじゃえ



このお手紙を読まれている頃には
わたしはここにはいないでしょう



許されることではないことは
分かっております

私がこれからする行為は親愛なる
お嬢様への裏切りです

ですが私のお嬢様に対する
この思いを知っていただきたいのです

出会った日のことを
鮮明に覚えています

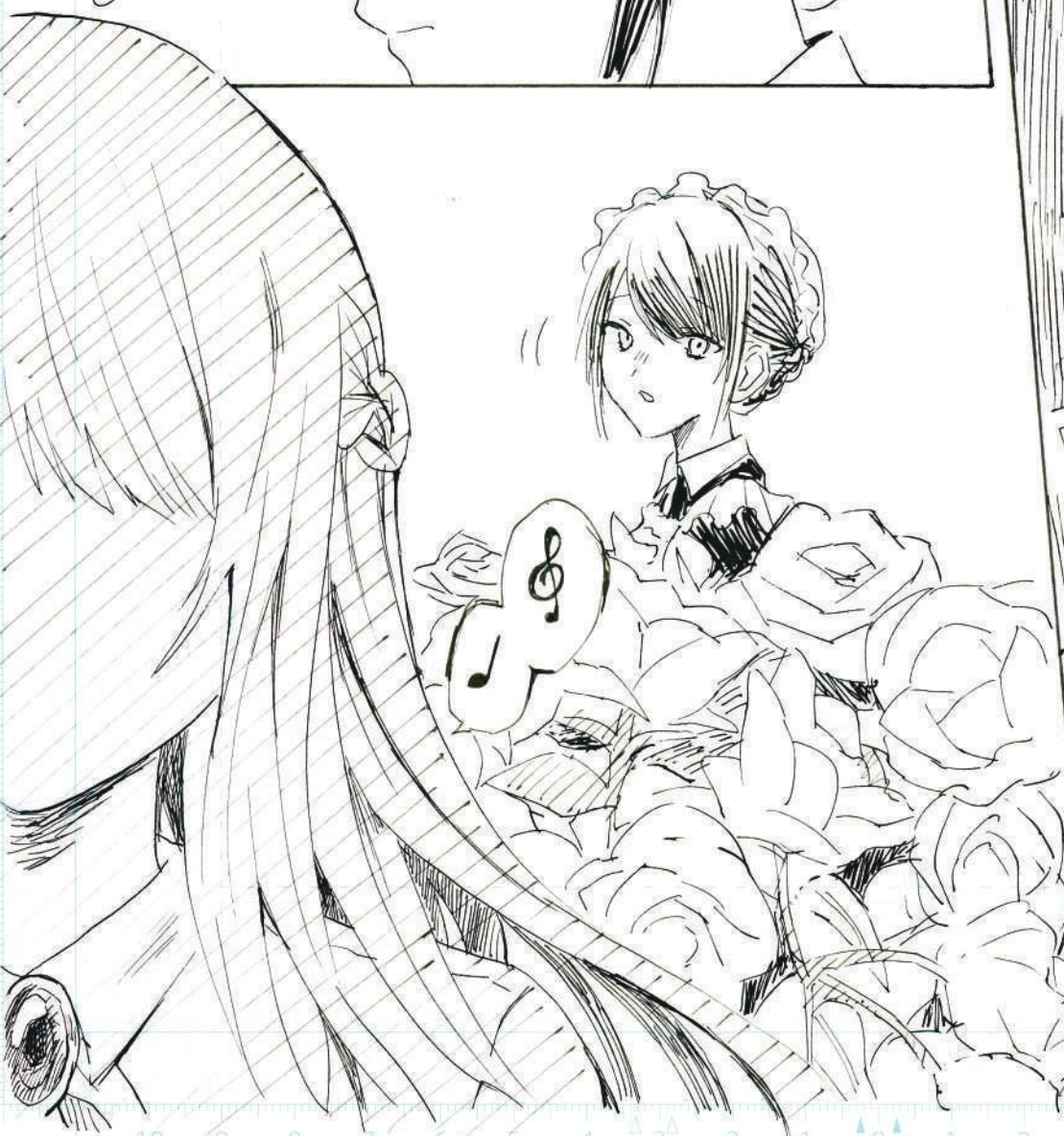
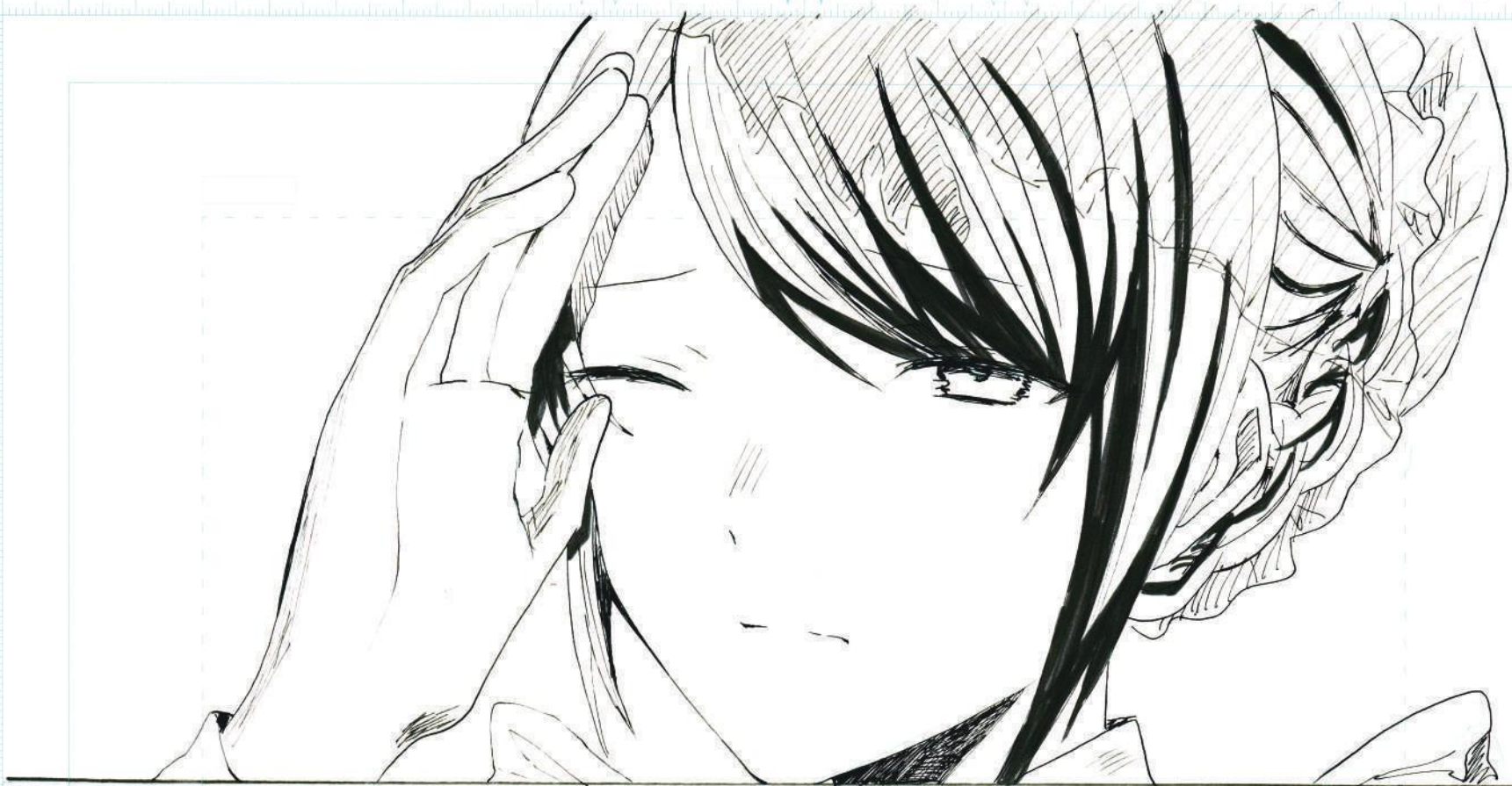
お嬢様

今でも



向こうは明るいな

お屋敷についてすぐに
私はお嬢様を探しに
あの場所へと向いました



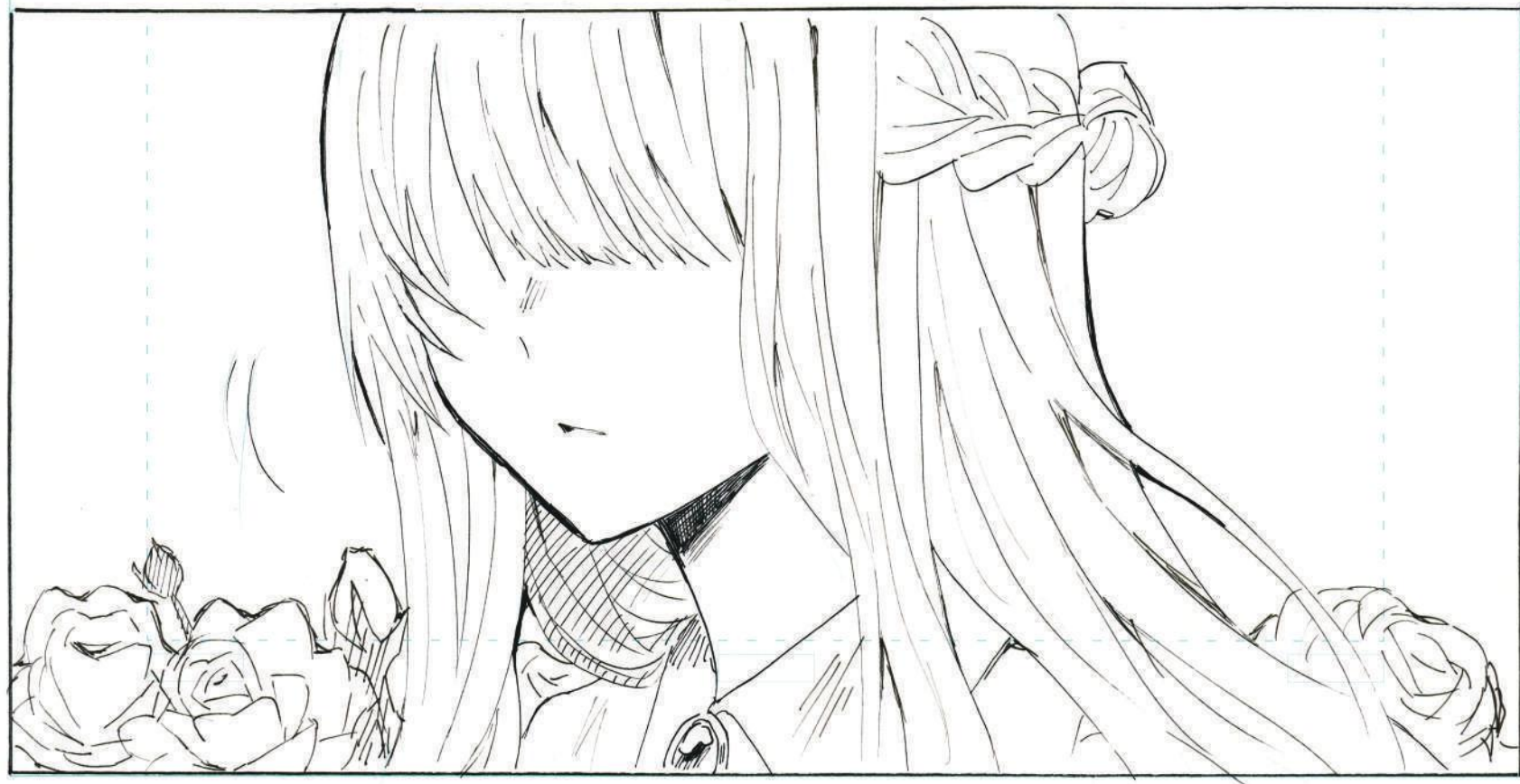
お嬢様

お嬢様を初めて
見た時の感情を



お嬢

お嬢





あら

もうレッスンの時間？

なんと表すべきなのかは
分かりません





アンね覚えてたわ
よろしくね

あ、アンです
今日からと
なります



あなた見ない顔ね



はい

では
戻りましょう

私を

見つけてくれてありがとう



ねえアン

お嬢様ほどの方はいない、
そう感じました



努力家で何事にも
手も抜かず

あ、
お嬢様は



みな平等に
接し

そして

他の何よりも
あの場所の

バラたちを
愛してる



私であればいい
なんて

叶いもしないことばかり
考えていました

お嬢様の愛おしそうな
視線のその先が





今は亡き奥様との
思い出の場所で

ある時
お嬢様は私にバラの庭について
教えてくださいました

泣いて隠れていると
いつも見つけに来て
くれていたこと



お嬢様は
こうおしやっつて
下さいました



それから

あの日、見つけてくれて
嬉しかったと

死ぬまで絶対
忘れません

私はお嬢様の
そのお言葉を



今死んだって
構わない

いいえ



私の世界は
貴女だけの
ものなのです





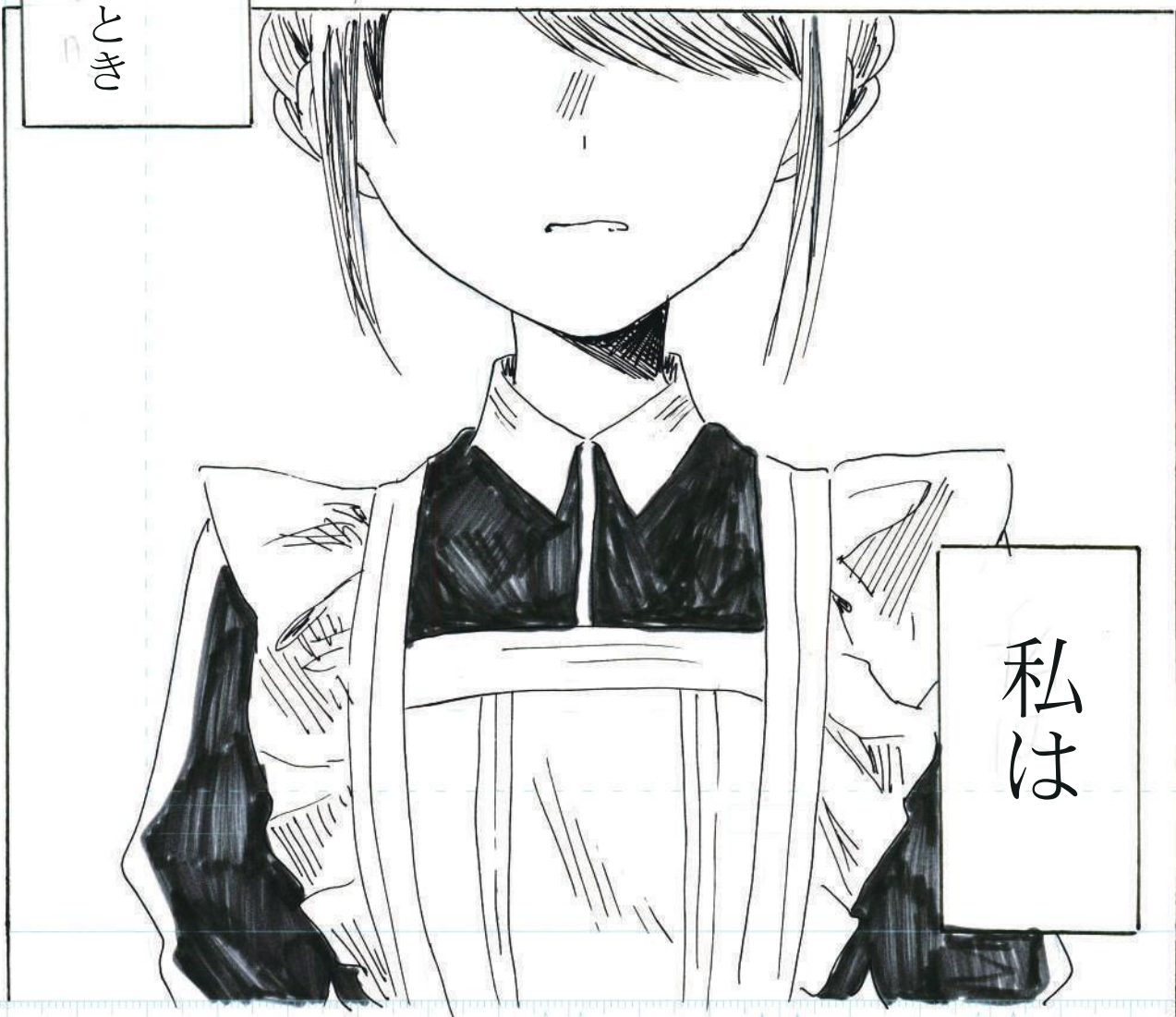
私の

ずっと欲しかった
お嬢様の視線の先に

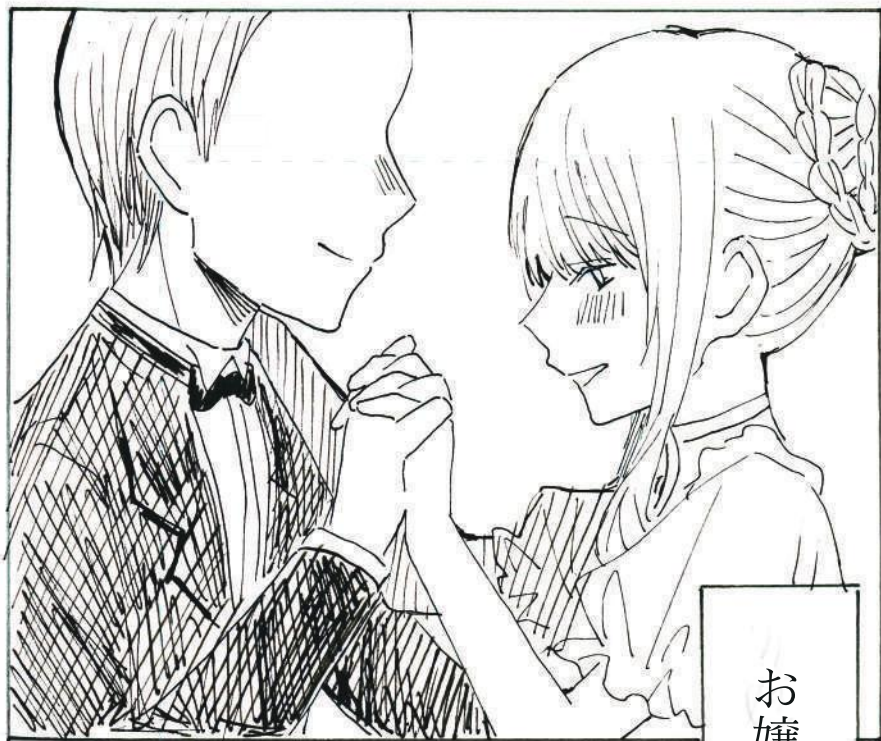
しかし、そんな世界も
終わりは来るもので



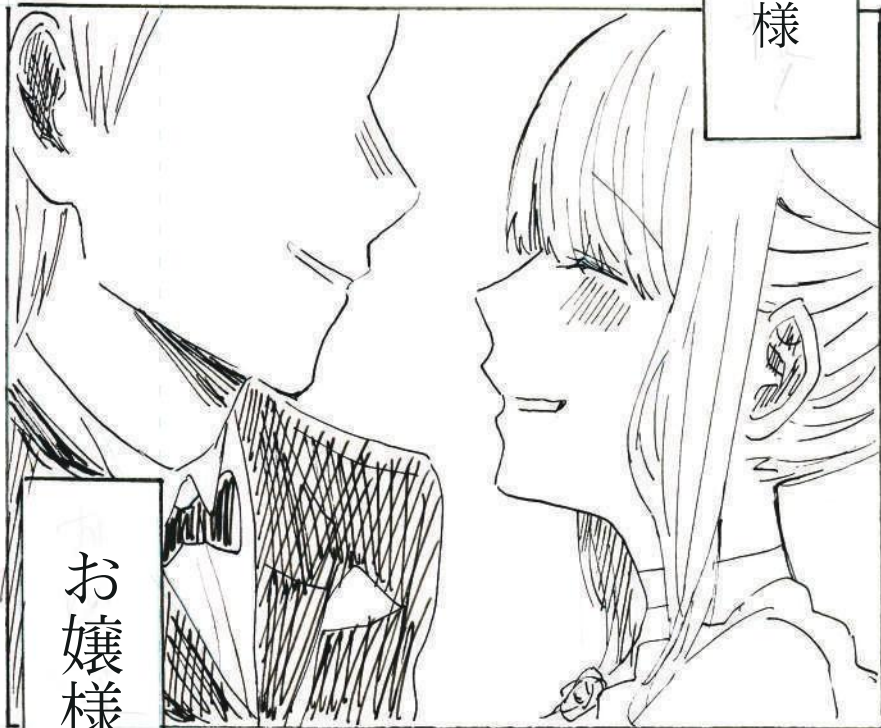
他の方が
映っているとき



私は



お嬢様



お嬢様



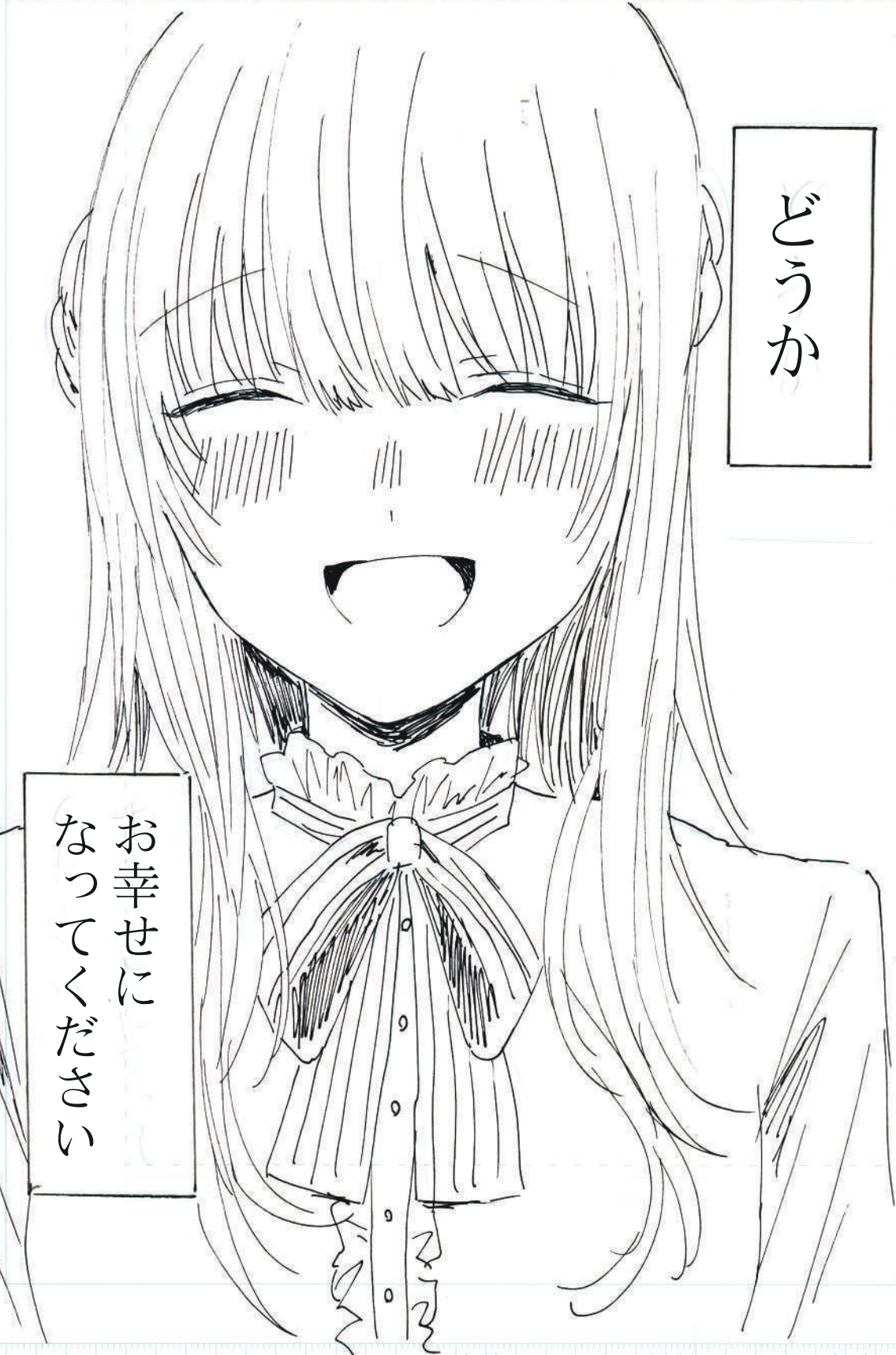
お嬢様



その場から一歩も
動けなくなりました



他の人なんか
見ないで



どうか

お幸せに
なってください



そして今日

私はここから
去ります



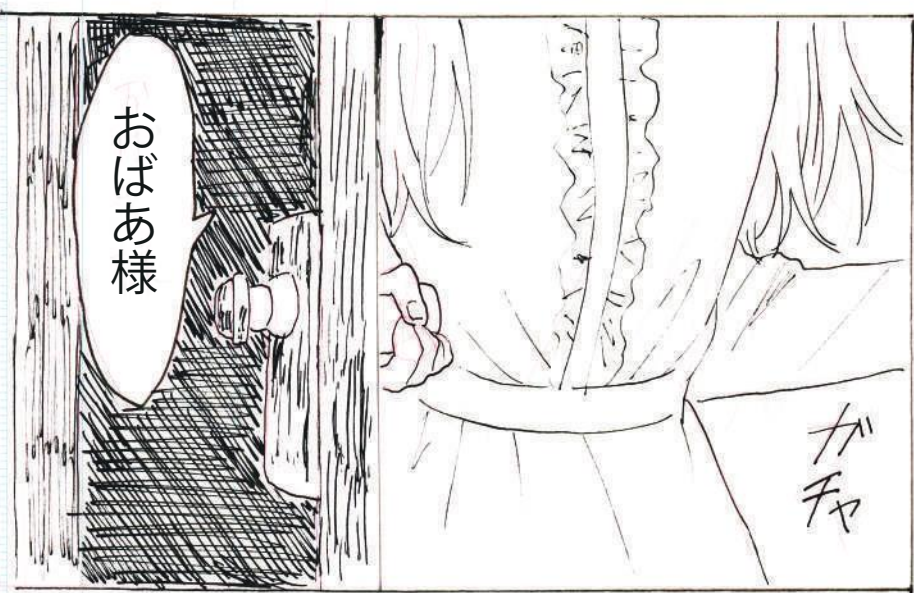
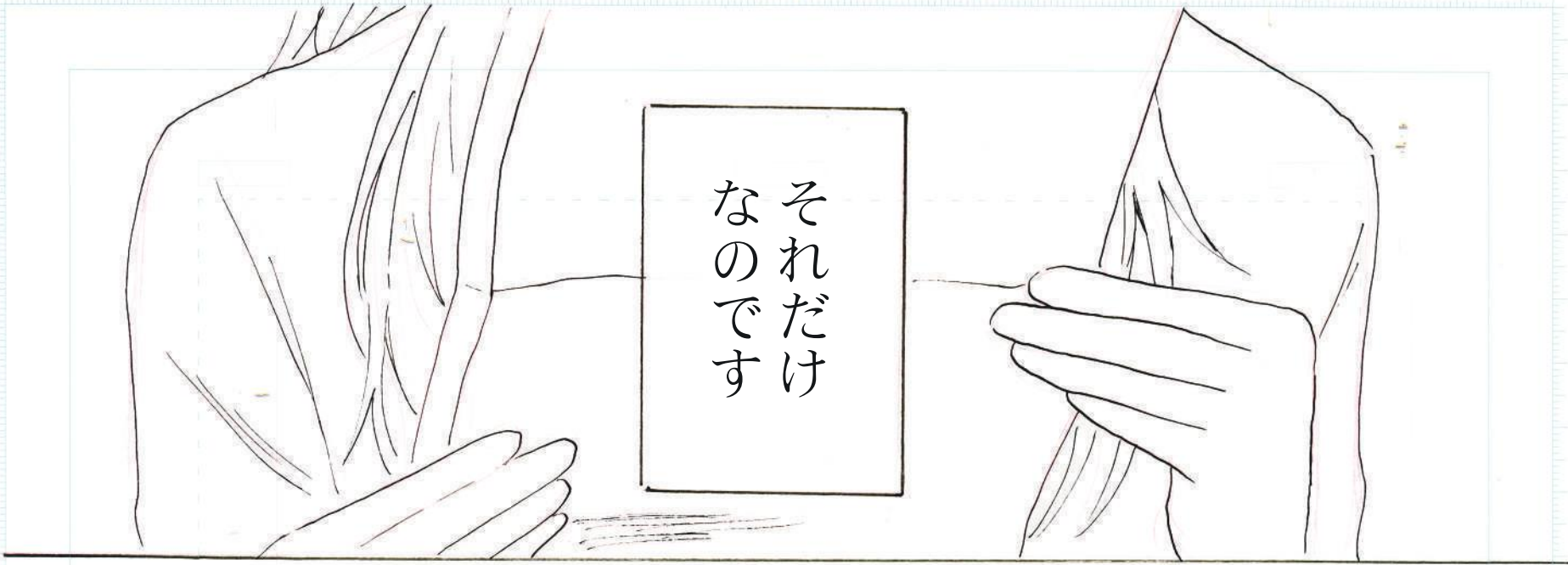
あの場所で

ですがもしも
願いが叶うなら



貴女に
会いたい

もう一度





みつけた